

[演題名] 65/80 文字

記録の内容を端的に示す「タグ」を付け地域 ICT に共有する作業が多職種に共有すべき情報を峻別して記録する意識づけと記録の構造化を推進する

[筆頭演者]沼沢祥行 1,2

[共同演者]近藤唯宇 1,2, 松澤亮 1,2, 住谷智恵子 1,2, 星野大和 1,3, 川越正平 1,2

[所属機関]1 松戸市在宅医療・介護連携支援センター,2 千葉健愛会あおぞら診療所,3 ほしの在宅ケアクリニック

[抄録本文] 784/800 文字

【目的】

2 者間の連絡手段（FAX や電話）では,他の従事者が内容を把握できない.地域 ICT は多職種が相互に記事を参照できる.さらに,当地域の地域 ICT は,共有した記事の内容を表す「タグ」を付けてソートできる.地域 ICT の共同利用が教育機能を担いつつある実態を明らかにする.

【方法】

2019 年 1 月から 2022 年 1 月を調査対象期間とした.登録患者 624 名中,①ACP に資する情報,②ケアプラン情報,③臨床写真,④転倒,⑤歯科・口腔・嚥下,⑥栄養関連,⑦身体・高次機能,⑧調剤情報,⑨合併症・急性増悪,⑩医療トラブル,⑪要注意情報,⑫行方不明,⑬発作,⑭診療情報提供書,⑮診療画像のタグ付記事のある 424 名のタグ付記事 2441 を経時的に分析した.

【結果】

使用タグ種が多い順に,医師・看護師①～⑮,ケアマネジャー（CM）①～⑪,介護福祉士①～⑤⑪⑫⑮,地域包括支援センター職員（包括職員）①⑤～⑦⑪⑫⑭,薬剤師①③⑤～⑧⑪,歯科医師③⑤⑪⑮,リハビリ専門職①③⑦⑩,歯科衛生士⑤⑮,診療所 MSW⑭,在宅医療・介護連携支援センター①のタグを使用していた.全職種でタグ付き記事数,使用タグ種が増加した.記事数の増加は医療職が先行し,タグ種の増加は介護職が医療職を上回る速度で進み,特に CM,介護福祉士,包括職員の使用タグ種が 2020～21 年に急速に増加した.また,地域 ICT 利用事業所数と専門職数は,2019 年末の 72 か所,342 名から 2021 年末の 122 か所,617 名へ増加した.

【考察】

記録にタグが付いたことが,本研究における数的分析を可能とした.各専門職が把握した情報から,多職種に共有すべき情報を意識し,峻別して記録する経験や意識づけが進み,記録の構造化が進んだと考えられる.タグ機能を実装した地域 ICT の共同利用経験が,記録のスキルやノウハウを切磋琢磨する機会をもたらしと言える.地域 ICT の教育機能をさらに生かすため,地域 ICT 未利用の専門職に新規利用を促す普及啓発が必要である.

(COI:)なし



記録の内容を端的に示す「タグ」を付け 地域ICTに共有する作業が 多職種に共有すべき情報を峻別して記録する 意識づけと記録の構造化を推進する

○沼沢祥行^{1,2}、近藤唯宇^{1,2}、松澤亮^{1,2}、
住谷智恵子^{1,2}、星野大和^{1,3}、川越正平^{1,2}

1松戸市在宅医療・介護連携支援センター

2千葉健愛会あおぞら診療所 3ほしの在宅ケアクリニック



日本在宅医療連合学会 C O I 開示

沼沢祥行

演題発表に関連し、開示すべき C O I 関係にある
企業などはありません。



千葉県松戸市

面積**61.38km²**

15の日常生活圏域

12.8万人の高齢者

松戸市医療・介護連携 地域 I C T システム

2019年1月より運用開始

職能団体等に加加入している機関・事業所が参入可能

- 団体と医師会が協定を結び、その会員であれば利用可能（組織的統合）

医師は各職種から出された質問にだけは返事をする

- 職種間の権威勾配の最小化を目指す（病院で医師PHSに電話するのと同じ）

“共有する価値のある情報”を置いておく（電子カルテではない）

- 体重データや排泄の履歴、転倒や行方不明などの重要トラブル歴をも共有する

現在進行形としてのACP（意思決定支援）を実践する

- 聴取した「言葉」・エピソードや 人生会議出席者を日々把握し、記録しておく

第3回大会で報告

記事に「タグ」を付け内容を端的に示す

ACPタグにチェック
を入れる

ACPタグをつけたメッセージを
ソートし時系列で表示できる*

件名：ACPに資する情報20210617

件名：ACPに資する情報20210228

件名：ACPに資する情報20210115

* 新しいものが上に積み上がる
(LINE@やFacebook Messenger@と異なる)

新規メッセージ

☐ ! 重要なメッセージ

件名 **ACP（意思決定支援）に資する情報20210115** 定型文

メッセージを入力してください。 定型文

〇〇〇先生 訪問診療時
S) 5年は生きられないのだから、年をひとつとっただけ

0文字/最大2000文字以内

添付... 選択されていません。

▼ タグ ☒ ACP ☐ 検体検査 ☐ 診療画像 ☐ 臨床写真 ☐ 調剤情報
☐ ケアプラン情報 ☐ 診療情報提供書 ☐ 転倒 ☐ 行方不明
☐ 発作 ☐ 医療トラブル ☐ 合併症・急性増悪発症 ☐ 要注意情報
☐ 歯科・口腔・嚥下情報 ☐ 身体・高次機能 ☐ 栄養関連情報
☐ 事業所内共有メモ ☐ 居宅療養管理指導

☒ 患者家族・その他の連絡先

キャンセル 登録

件名：ACPに資する情報20210115

〇〇〇先生 訪問診療時

S) 5年は生きられないのだから、年をひとつとっただけ



“検体検査”

<< 検査結果 時系列一覧表 >>

処理日 (2019/04/01 10:00) Page=1/1

カルテNO :

患者ID :

履歴 : 1 ~ 6

患者名 : (/ /)

SEQ	項目名称	基準値	単位	1回	2回	3回	4回	5回	6回
				2017/11/24	2018/01/10	2018/04/04	2018/10/10	2019/01/08	
1	白血球数 (WBC)	3500 ~ 9700	/ μ L	7040	7100	8010	6770	6380	
2	赤血球数 (RBC)	男 438~577 万/ μ L		349▼	355▼	375▼	362▼	361▼	
3	血色素量 (Hb)	男 13.6~18.3 g/dL		10.7▼	11.2▼	11.2▼	11.3▼	11.1▼	
4	ヘマトクリット (Ht)	男 40.4~51.9 %		34.4▼	34.7▼	34.7▼	33.5▼	35.4▼	
5	MCV	男 83 ~ 101 fL		99	98	93	93	98	
6	MCH	男 28.2~34.7 pg		30.7	31.5	29.9	31.2	30.7	
7	MCHC	男 31.8~36.4 %		31.1▼	32.3	32.3	33.7	31.4▼	
8	血小板数	14.0~37.9 万/ μ L		19.5	19.6	18.5	21.4	20.7	
9	総蛋白 (TP)	6.5 ~ 8.2 g/dL		6.1▼	6.1▼	6.1▼	6.2▼	5.9▼	
10	アルブミン (Alb)	3.7 ~ 5.5 g/dL		3.4▼	3.5▼	3.7	3.7	3.6▼	
11	AST (GOT)	10 ~ 40 U/L		14	18	13	15	15	
12	ALT (GPT)	5 ~ 45 U/L		8	10	7	8	8	
13	LD (LDH)	120 ~ 245 U/L		164	181	156	176	166	
14	ALP	104 ~ 338 U/L			206	262		350▲	
15	γ -GT (γ -GTP)	男 79以下 U/L						11	
16	総ビリルビン	0.3 ~ 1.2 mg/dL		0.4	0.3	0.6	0.3	0.3	
17	クレアチニン (CREA)	男 0.65~1.09 mg/dL		1.08	1.20▲	1.19▲	1.22▲	1.22▲	
18	尿素窒素 (UN)	8.0 ~ 20.0 mg/dL		23.4▲	21.2▲	28.1▲	28.9▲	26.7▲	
19	尿酸 (UA)	男 3.6~7.0 mg/dL			6.8				
20	CK	男 50 ~ 230 U/L		91	99	60	80	87	
21	総コレステロール	150 ~ 219 mg/dL			147▼				



“診療画像”





“調剤情報”

☆ 様のお薬の説明書です ☆ 歳 か月

他の病院、診療所にかかるとき、または薬局でお薬をお求めになるときはこの用紙を見せて下さい。

ID No 1002 受付番号 指導日 2019年1月12日 内科

1. カルスロット錠20（淡橙黄）



記号 232:20/
23220:20

錠				
起床	朝	昼	夕	寝前
	1			

1日1回朝食後

薬の作用
血管を拡張し血圧を下げます。カルシウム拮抗薬と呼ばれています。

注意事項
●めまい、ふらつきがおこることがありますのでご注意ください。自己判断でお薬をやめると症状が悪化することがあります。グレープフルーツジュースにより作用が強くなる場合があります。★妊婦は通常服用できません。

14日分

2. タナトリル錠5（白（割線模様））



記号 TA135:5/
TA1355

錠				
起床	朝	昼	夕	寝前
	1			

1日1回朝食後

薬の作用
末梢の血管を拡張して血圧を下げ、心臓の働きも助けます。ACE阻害薬と呼ばれています。

注意事項
●めまい、ふらつきがおこることがありますので注意して下さい。★妊婦または妊娠の可能性のある婦人は通常服用できません。咳、呼吸困難、吐き気、かゆみ、息切れ、顔や舌のはれ、尿の量が減るなどの症状が現れた時はご連絡下さい。

14日分

3. ラシックス錠20mg（白）



記号 DLFDF:20/
DLF2020mg

錠				
起床	朝	昼	夕	寝前
	1			

1日1回朝食後

薬の作用
降圧利尿薬といわれるもので、尿量を増やしてむくみを取り血圧を下げます。特に利尿作用が強いお薬です。

注意事項
●めまい、ふらつきがおこることがあります。車の運転や機械を操作する時には注意して下さい。★貧血、発疹、高熱、目の充血、耳が聞こえにくいなどの症状が出た場合はご連絡下さい。

14日分



褥瘡



姿勢



口腔

訪問看護師による「身体・高次機能」タグの使用

件名：訪問看護報告

訪問リハビリの先生から連絡あり。ポジショニングについては、右大腿部に、家にあるムートンクッションを半分に折ったくらいの大サイズのクッションを斜めに差し込み外転を予防するのが良いだろう、長時間同一のポジショニングだとスキントラブル発生が心配なので、数時間ずつクッションを出し入れするなどの対応が必要とのことでした（以下略）

🔖 身体・高次機能

ケアマネジャーによる「栄養関連情報」タグの使用

件名：デイサービス「栄養スクリーニング」からの報告

管理栄養士よりBMIが18.5以下で低栄養の恐れあり

身長>168cm 体重>R2.2.23 47.1kg/ R2.8.25 45.0kg/ R3.2.26 46.8kg
R2.12月に49.7kgと最も多く、現在はやや減少し維持しております。と報告受けています。訪問看護確認し、4/26 48.2kgです。栄養スクリーニングを行うことで、体重の管理を同時に行う形になっています（ケアプランに入っています）。 🔖 栄養関連情報

医師による「医療トラブル」タグの使用

件名：尿道カテーテルについて

2/14夕に**尿道カテーテルのバルーン破裂**があり交換していますが、2/21夕にも再度バルーン破裂がありました。

膀胱エコーでは明らかな結石はなさそうでした（が、残尿少なく結石を見逃している可能性もあります）。

バルーンを圧迫してしまっている本人の感覚があるとのことで、昨日は**バルーン内の水を10ccではなく5ccにして（球の直径2cm、固定はされる）経過をみる**こととしました。

 **医療トラブル**

介護福祉士、看護師による「転倒」タグの使用（居住系施設）

件名：転倒の報告

4/某日5:40、 センサーが鳴り訪室すると後頭部を壁に沿わせ滑らせて、
足を投げ出して座っている。打撲、外傷はなしです。

4/某日8:30、 上記同様の姿勢で発見。
後頭部に3×3cmの赤みあり。その他特変はありません。

転倒 202X/4/某日

件名：転倒

23時45分 居室にて音がして行くと転倒している。特変はなし

転倒 202X/3/某日

件名：転倒報告

夕食後 席から立ち上がり ふらつきみられステーション前で転倒する。
特変は今のところみられていません

転倒 202X/3/某日

利用可能な「タグ」

新規メッセージ

☐ **！** 重要なメッセージ

件名を入力してください

定型文

メッセージを入力してください。

定型文

0文字/最大2000文字以内

添付...

選択されていません。

▼ タグ

☐ A C P

☐ 検体検査

☐ 診療画像

☐ 臨床写真

☐ 調剤情報

☐ ケアプラン情報

☐ 診療情報提供書

☐ 転倒

☐ 行方不明

☐ 発作

☐ 医療トラブル

☐ 合併症・急性増悪発症

☐ 要注意情報

☐ 歯科・口腔・嚥下情報

☐ 身体・高次機能

☐ 栄養関連情報

☐ 事業所内共有メモ

☐ 居宅療養管理指導

▼ 患者家族・その他の連絡先

キャンセル

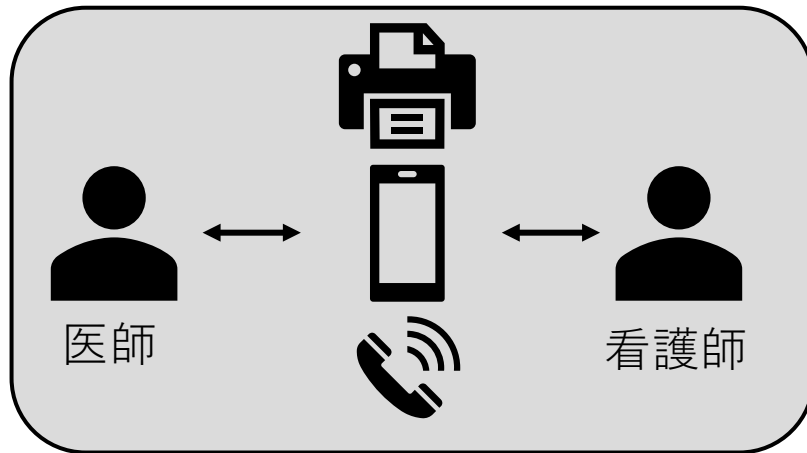
登録

【地域ICTと電話・FAXによる情報共有の対比】

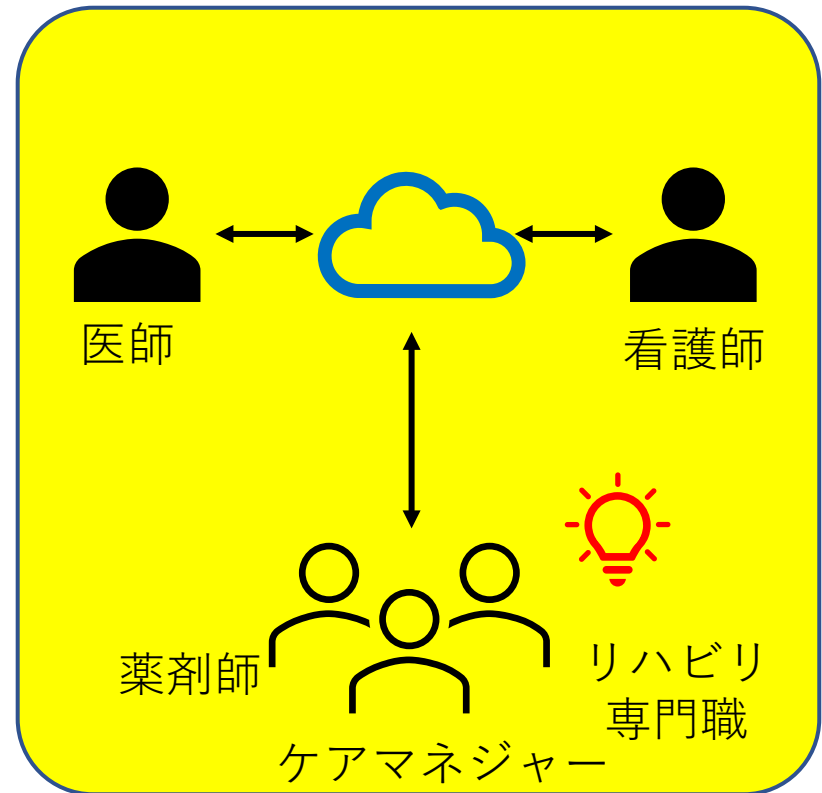
地域ICTに共有された記事は多職種が参照可能

FAXや電話を用いた2者間の情報共有は
他の従事者が内容を把握できる形で記録が残らない

情報共有の範囲の例



情報共有の範囲の例



【目的】

地域ICTの共同利用が、教育機能を担いつつある実態を明らかにする

【方法】

地域ICTの運用が開始された2019年1月から2022年1月を調査対象期間とした。

地域ICT登録患者総数624名のうち、**記事の内容を端的に示した「タグ」**が付いた記事のある**患者424名のタグ付記事2441**を分析した。

1. 専門職ごとにタグを使用した「記事の数」
2. 専門職ごとに記事に使用した「タグの種類」

【結果】

医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、介護福祉士、 歯科医師が地域ICT運用開始1年で複数のタグを利用

2019	医師	看護師	薬剤師	C M	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	81	2	0	2	11	0	0	0	0	0	0	0	96
診療画像	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
診療情報提供書	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
調剤情報	1	5	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74
ケアプラン	0	1	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	8
身体・高次脳機能	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
歯科・口腔・嚥下情報	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	5
栄養関連情報	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
転倒	5	8	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	22
発作	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行方不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合併症・急性増悪	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療トラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要注意情報	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
臨床写真	4	13	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	21
合計	580	29	68	8	24	0	3	1	0	0	0	0	713

ACPに資する情報の共有が81と最多

2019に初めて使用されたタグ/書込職種

看護師、薬剤師、CM、介護福祉士のタグ使用が増加し、地域包括職員、リハビリ専門職、管理栄養士が新規にタグを使用

2019-2020	医師	看護師	薬剤師	CM	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	199	15	1	2	38	0	0	0	0	0	0	0	255
診療画像	23	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	24
診療情報提供書	19	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
調剤情報	11	30	314	0	0	0	0	0	0	0	0	0	355
ケアプラン	0	1	0	20	1	0	0	0	0	0	0	0	22
身体・高次脳機能	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5
歯科・口腔・嚥下情報	4	0	0	0	1	0	3	6	0	0	0	0	14
栄養関連情報	4	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
転倒	22	46	0	1	24	0	0	0	0	0	0	0	93
発作	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
行方不明	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
合併症・急性増悪	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療トラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要注意情報	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
臨床写真	13	107	0	2	9	0	1	0	1	0	0	0	133
合計	1480	212	315	25	74	1	4	6	2	1	0	0	2120

2019に初めて使用されたタグ/書込職種
2020に初めて使用されたタグ/書込職種

看護師が“栄養関連情報”や“発作タグ”を、介護・福祉職が“身体・高次機能” “歯科・口腔・嚥下情報” “転倒タグ”を使用

2019-2020	医師	看護師	薬剤師	CM	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	199	15	1	2	38	0	0	0	0	0	0	0	255
診療画像	23	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	24
診療情報提供書	19	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
調剤情報	11	30	314	0	0	0	0	0	0	0	0	0	355
ケアプラン	0	1	0	20	1	0	0	0	0	0	0	0	22
身体・高次脳機能	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5
歯科・口腔・嚥下情報	4	0	0	0	1	0	3	6	0	0	0	0	14
栄養関連情報	4	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
転倒	22	46	0	1	24	0	0	0	0	0	0	0	93
発作	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
行方不明	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
合併症・急性増悪	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療トラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要注意情報	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
臨床写真	13	107	0	2	9	0	1	0	1	0	0	0	133
合計	1480	212	315	25	74	1	4	6	2	1	0	0	2120

2019に初めて使用されたタグ/書込職種
2020に初めて使用されたタグ/書込職種

2021年には全ての専門職がタグを使用 全てのタグを2～8専門職が使用

2019-2021	医師	看護師	薬剤師	CM	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	338	39	2	6	62	2	0	0	1	0	0	4	454
診療画像	25	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	30
診療情報提供書	47	5	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	56
調剤情報	28	44	742	2	0	0	0	0	0	0	0	0	816
ケアプラン	3	2	0	44	1	0	0	0	0	0	0	0	50
身体・高次脳機能	46	8	1	3	0	2	0	0	24	0	0	0	84
歯科・口腔・嚥下情報	32	13	2	3	3	1	35	19	0	0	0	0	108
栄養関連情報	36	29	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	71
転倒	32	99	0	7	28	0	0	0	0	0	0	0	166
発作	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
行方不明	8	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	12
合併症・急性増悪	13	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17
医療トラブル	8	7	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	17
要注意情報	39	14	2	4	1	3	1	0	0	0	0	0	64
臨床写真	25	292	1	4	15	0	1	0	3	0	0	0	341
合計	2863	574	754	80	113	12	38	20	29	1	3	4	4491

特に、看護師、薬剤師、CM、介護福祉士、地域包括職員が積極的にタグを使用している

2019に初めて使用されたタグ/書込職種
2020に初めて使用されたタグ/書込職種
2021に初めて使用されたタグ/書込職種

ACPタグを8職種（最多）が使用し 地域ICTの持つ教育機能（波及効果）を最もよく示す

2019-2021	医師	看護師	薬剤師	C M	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	338	39	2	6	62	2	0	0	1	0	0	4	454
診療画像	25	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	30
診療情報提供書	47	5	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	56
調剤情報	28	44	742	2	0	0	0	0	0	0	0	0	816
ケアプラン	3	2	0	44	1	0	0	0	0	0	0	0	50
身体・高次脳機能	46	8	1	3	0	2	0	0	24	0	0	0	84
歯科・口腔・嚥下情報	32	13	2	3	3	1	35	19	0	0	0	0	108
栄養関連情報	36	29	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	71
転倒	32	99	0	7	28	0	0	0	0	0	0	0	166
発作	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
行方不明	8	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	12
合併症・急性増悪	13	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17
医療トラブル	8	7	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	17
要注意情報	39	14	2	4	1	3	1	0	0	0	0	0	64
臨床写真	25	292	1	4	15	0	1	0	3	0	0	0	341
合計	2863	574	754	80	113	12	38	20	29	1	3	4	4491

次いで、歯科・口腔・嚥下情報が、歯科医師・歯科衛生士を除く6職種で使用されている

2019に初めて使用されたタグ/書込職種
2020に初めて使用されたタグ/書込職種
2021に初めて使用されたタグ/書込職種

“身体・高次機能”、“歯科・口腔・嚥下情報”、“栄養関連情報”を
それぞれの専門職（リハビリ専門職、歯科医師・歯科衛生士、管理栄養士）
の他、看護師、薬剤師、CM、介護福祉士、地域包括が積極的に利用している

2019-2021	医師	看護師	薬剤師	CM	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	338	39	2	6	62	2	0	0	1	0	0	4	454
診療画像	25	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	30
診療情報提供書	47	5	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	56
調剤情報	28	44	742	2	0	0	0	0	0	0	0	0	816
ケアプラン	3	2	0	44	1	0	0	0	0	0	0	0	50
身体・高次脳機能	46	8	1	3	0	2	0	0	24	0	0	0	84
歯科・口腔・嚥下情報	32	13	2	3	3	1	35	19	0	0	0	0	108
栄養関連情報	36	29	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	71
転倒	32	99	0	7	28	0	0	0	0	0	0	0	166
発作	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
行方不明	8	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	12
合併症・急性増悪	13	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17
医療トラブル	8	7	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	17
要注意情報	39	14	2	4	1	3	1	0	0	0	0	0	64
臨床写真	25	292	1	4	15	0	1	0	3	0	0	0	341
合計	2863	574	754	80	113	12	38	20	29	1	3	4	4491

2019に初めて使用されたタグ/書込職種
2020に初めて使用されたタグ/書込職種
2021に初めて使用されたタグ/書込職種

「重要トラブル」や“要注意情報”についても 多職種に共有すべきという意識付けが進んでいる

2019-2021	医師	看護師	薬剤師	C M	介護 福祉士	包括	歯科 医師	歯科 衛生士	リ ハ ビ リ 専 門 職	管理 栄養士	診療 所 M S W	連 携 支 援 セ ン タ ー	合 計
ACP	338	39	2	6	62	2	0	0	1	0	0	4	454
診療画像	25	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	30
診療情報提供書	47	5	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	56
調剤情報	28	44	742	2	0	0	0	0	0	0	0	0	816
ケアプラン	3	2	0	44	1	0	0	0	0	0	0	0	50
身体・高次脳機能	46	8	1	3	0	2	0	0	24	0	0	0	84
歯科・口腔・嚥下情報	32	13	2	3	3	1	35	19	0	0	0	0	108
栄養関連情報	36	29	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	71
転倒	32	99	0	7	28	0	0	0	0	0	0	0	166
発作	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
行方不明	8	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	12
合併症・急性増悪	13	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17
医療トラブル	8	7	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	17
要注意情報	39	14	2	4	1	3	1	0	0	0	0	0	64
臨床写真	25	292	1	4	15	0	1	0	3	0	0	0	341
合計	2863	574	754	80	113	12	38	20	29	1	3	4	4491

2019に初めて使用されたタグ/書込職種
2020に初めて使用されたタグ/書込職種
2021に初めて使用されたタグ/書込職種

経年的に着実に “タグを使用する専門職”と“タグの種類”が増加している

2019-2022	医師	看護師	薬剤師	C M	介護福祉士	包括	歯科医師	歯科衛生士	リハビリ専門職	管理栄養士	診療所MSW	連携支援センター	合計
ACP	356	43	2	6	63	3	0	0	1	0	0	4	478
診療画像	27	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	32
診療情報提供書	53	5	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	64
調剤情報	29	46	777	2	0	0	0	0	0	0	0	0	854
ケアプラン	3	2	0	44	1	0	0	0	0	0	0	0	50
身体・高次脳機能	51	9	1	3	0	2	0	0	24	0	0	0	90
歯科・口腔・嚥下情報	34	15	2	3	3	1	35	21	0	0	0	0	114
栄養関連情報	40	30	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	77
転倒	34	106	0	7	28	0	0	0	0	0	0	0	175
発作	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
行方不明	8	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	12
合併症・急性増悪	21	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25
医療トラブル	8	7	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	17
要注意情報	43	15	2	4	1	4	1	0	0	0	0	0	70
臨床写真	29	313	1	4	15	0	1	0	3	0	0	0	366
合計	3042	613	789	80	114	15	38	22	29	1	5	4	4752

2019に初めて使用されたタグ/書込職種

2020に初めて使用されたタグ/書込職種

2021に初めて使用されたタグ/書込職種

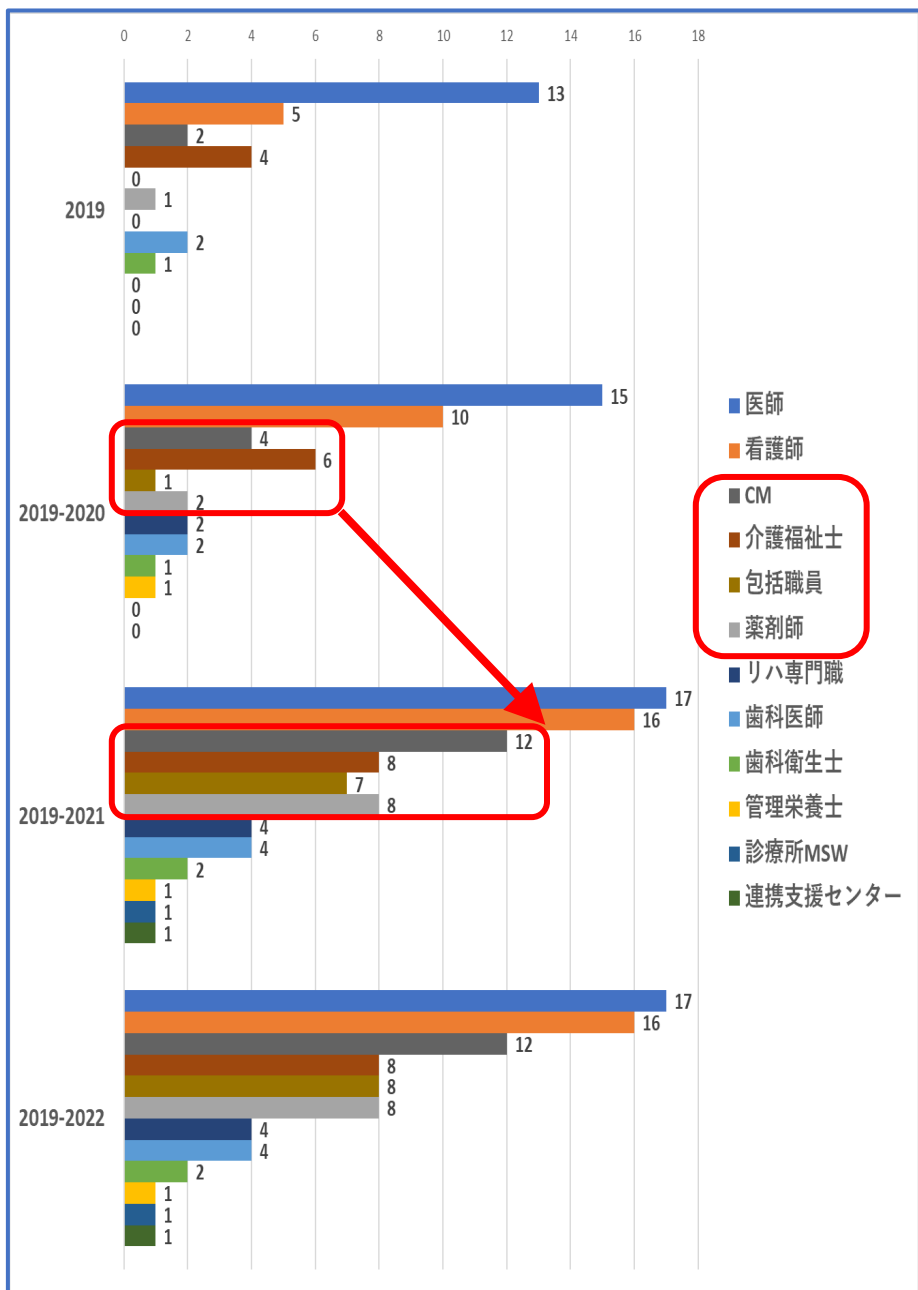
2022に初めて使用されたタグ/書込職種

医師、看護師、薬剤師によるタグ付き記事の増加が先行し、
ケアマネジャー、介護福祉士、地域包括、
歯科医師、歯科衛生士、リハビリ専門職の記事が遅れて増加した

	2019	2019-2020	2019-2021	2019-2022
医師	114	309	684	740
看護師	29	210	574	610
薬剤師	68	315	751	786
CM	8	25	79	79
介護福祉士	24	74	113	114
包括職員	0	1	10	13
歯科医師	3	4	38	38
歯科衛生士	1	6	20	22
リハ専門職	0	2	29	29
管理栄養士	0	1	1	1
診療所MSW	0	0	3	5
連携支援センター	0	0	4	4
合計	247	947	2306	2441

他の書き込みに触発され
タグを使用した情報を共有する意識付けが進んだ

「タグ」が“切り出して共有すべき情報”を意識づける



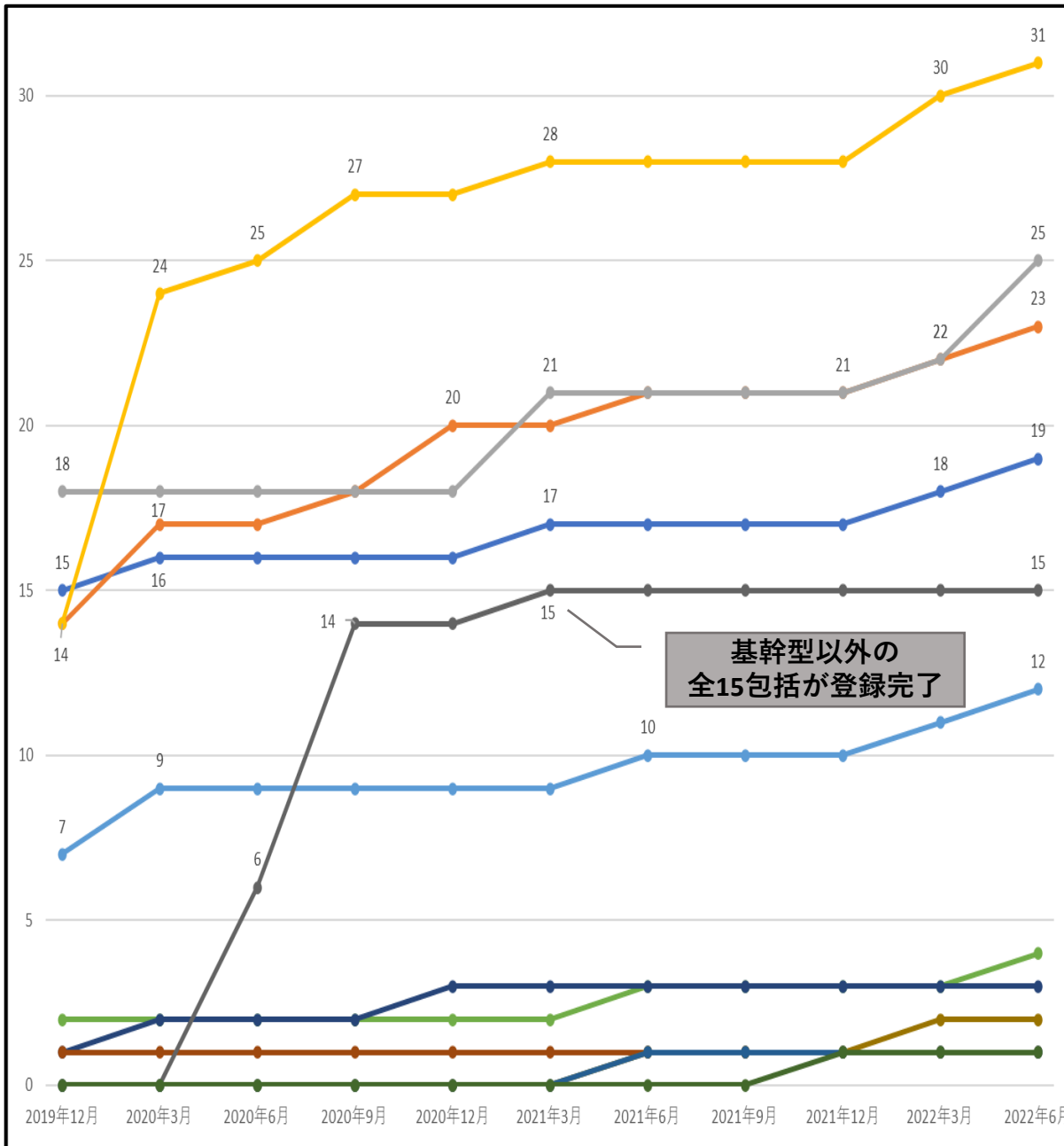
医師が早期から複数のタグを使用し、看護師が追随した

2020年から2021年にかけて、特にCM、介護福祉士、地域包括、薬剤師が使用するタグが増えた

2021年には全職種が1つ以上のタグを使用していた

地域ICT登録機関・事業所数は72から137に増加

2019年12月～2022年6月



31 調剤薬局

25 居宅介護支援事業所

23 訪問看護

19 医療機関

15 地域包括支援センター

12 歯科医院

4 看多機・小多機

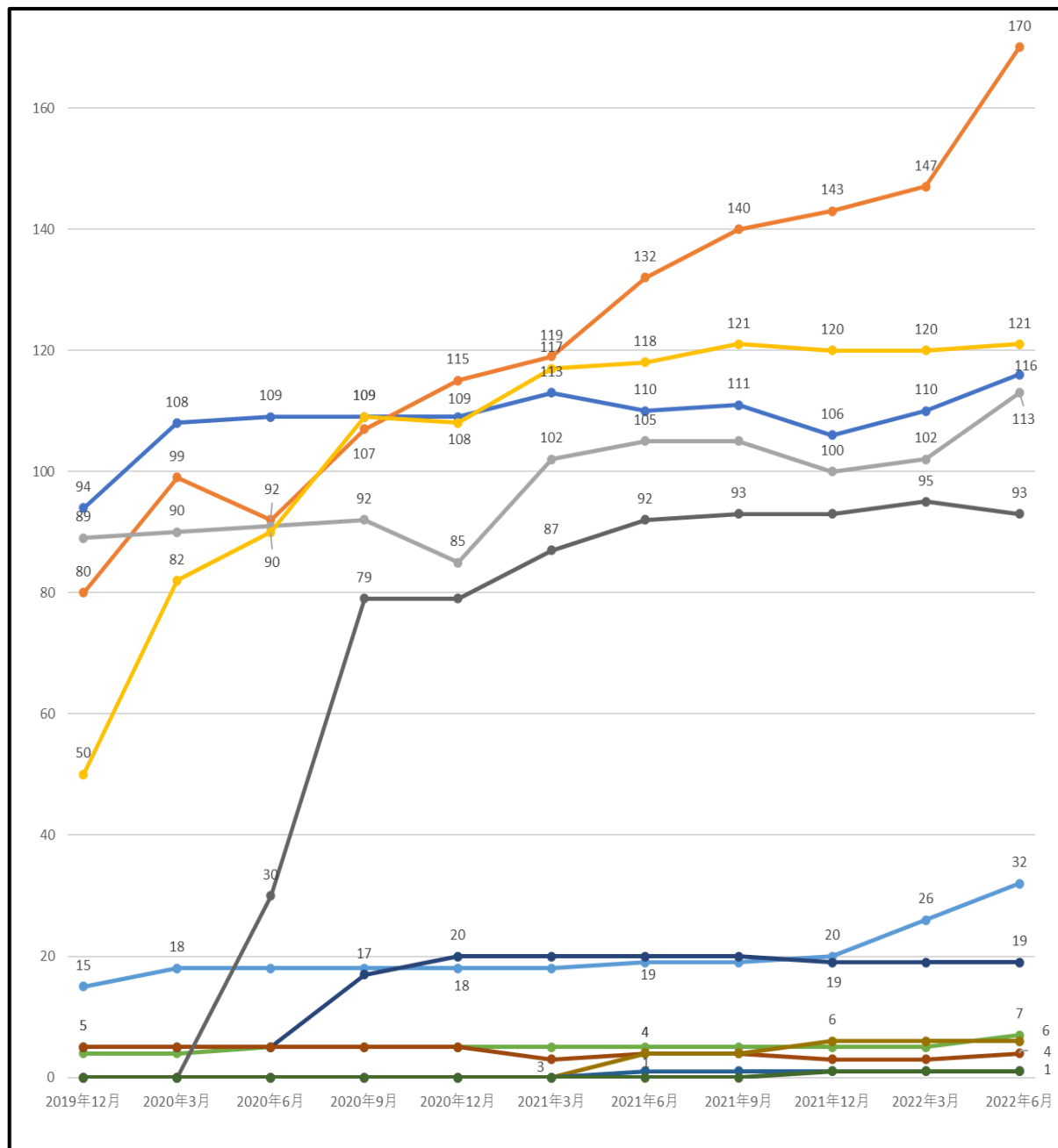
3 グループホーム

2 相談支援事業所

1 訪問リハビリテーション
デイサービス、特養

地域ICT登録専門職アカウント数は342から683に増加

2019年12月～2022年6月



170 訪問看護

121 調剤薬局

116 医療機関

113 居宅介護支援事業所

93 地域包括支援センター

32 歯科医院

19 グループホーム

7 看多機・小多機

6 相談支援事業所

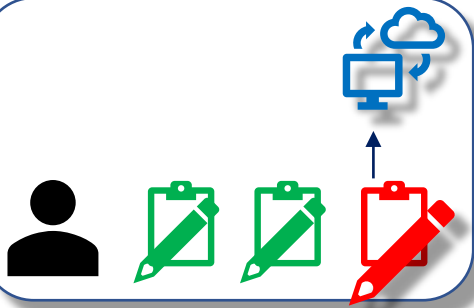
4 特養

1 訪問リハビリテーション

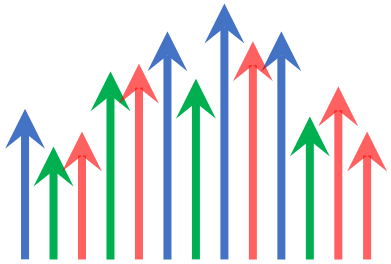
1 デイサービス

【考察】

地域ICTは医療介護福祉等専門職が 共同利用し使いこむことで 教育機能をもつプラットフォームとなる



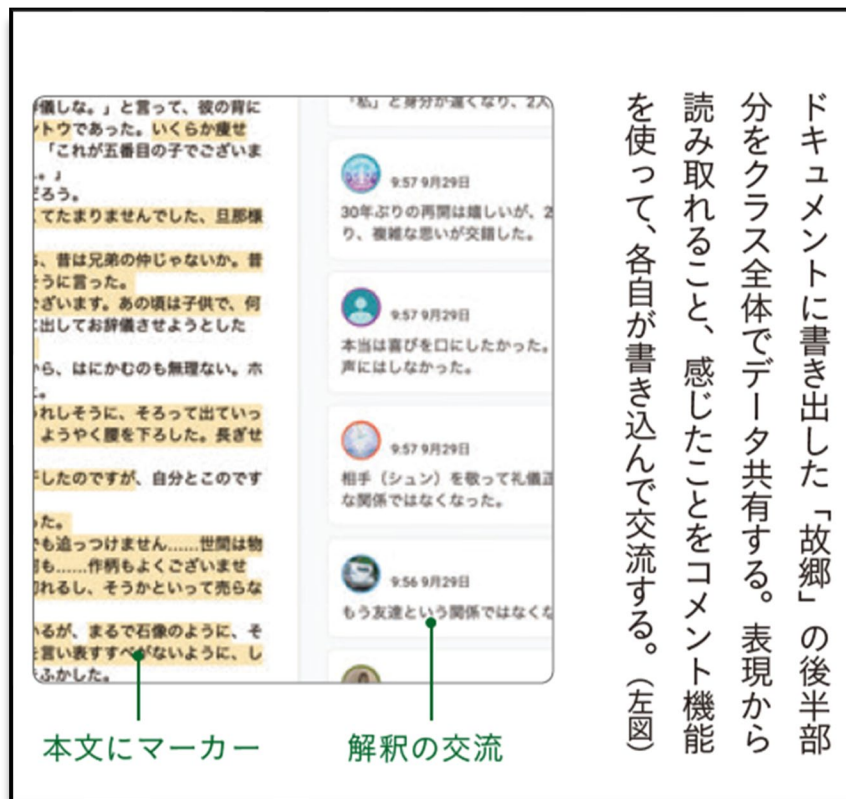
把握した情報から、多職種に共有すべき情報を峻別して記録する経験や意識づけが進み、記録の構造化を推進している



地域ICTの共同利用経験が、記録スキルやノウハウを切磋琢磨する研鑽機会となっている

地域ICTの共同利用が 臨床研鑽そのものとなっている

【他分野の例】 中等教育におけるICT共同利用の持つ教育機能 自分と他者の思考を比較分析できる“協働的な学び”が 全体の学びを深め切磋琢磨を生む



（例）中学生が同じ小説を読みながら
コメントし合う

知の共有

- 情報収集・編集を協働して行う

思考の相互触発

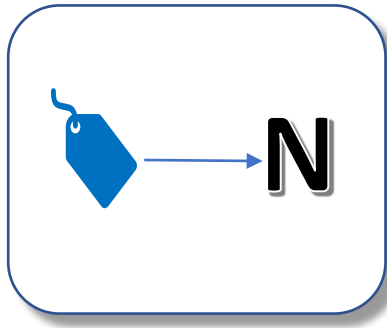
- 交流・意見交換ができる

鼎談 国語科の授業×ICTで生まれるもの
教育情報誌「中学校国語教育相談室」 2022; 94: 4-9

https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c_kokugo/sodan/94/kohoshi_c_kokugo_9403.pdf



タグ付機能が記事を数えることを可能とした



多職種の書き込む記事が、
タグ付機能により
数的分析可能なデータとなった

地域ICTの教育機能を生かすため地域ICT未利用の専門職に 新規利用を促す普及啓発が必要である

【普及啓発の取組例①】

“地域ICT運用好事例”を松戸市在宅医療・介護連携支援センターのホームページで公開

地域ICTシステム運用好事例紹介

- ◎ **new** [\(その19\)リハビリ：高次脳機能障害のアセスメントに基づき地域生活期における適切なリハビリテーションについて目標を再設定・共有する](#)
- ◎ [\(その18\)非公開](#)
- ◎ [\(その17\)全員：2職種間の軌道\(trajecory\)を踏まえたケア目標の議論をチーム全体が把握する](#)
- ◎ [\(その16\)全員：生活情報の共有が診断や治療方針の再考に役立つ](#)
- ◎ [\(その15\)薬剤師：訪問薬剤師の活躍：診療に役立った薬剤師からの情報](#)
- ◎ [\(その14\)病院：情報連携による病診連携](#)
- ◎ [\(その13\)全員：医師からの簡潔な助言が多職種チームの認識統一の一助となる](#)
- ◎ [\(その12\)全員：地域包括支援センターとの連携](#)
- ◎ [\(その11\)全員：新機能の紹介](#)
- ◎ [\(その10\)全員：居宅療養管理指導の情報伝達](#)
- ◎ [\(その9\)全員：発作・要注意情報の紹介](#)
- ◎ [\(その8\)全員：転倒・行方不明タグの紹介](#)
- ◎ [\(その7\)全員：バイタル機能の活用](#)
- ◎ [\(その6\)介護看護：ブリストルスケールの紹介](#)
- ◎ [\(その5\)歯科：医科歯科連携タグの紹介](#)
- ◎ [\(その4\)病院：救急搬送時の医療情報連携](#)
- ◎ [\(その3\)CM：重要メッセージを用いた重大事案発生時の情報共有](#)
- ◎ [\(その2\)全員：ACPタグ](#)
- ◎ [\(その1\)薬剤師：処方情報送付同意書](#)



地域ICTの教育機能を生かすため地域ICT未利用の専門職に 新規利用を促す普及啓発が必要である

【普及啓発の取組例②】 第3回大会報告の抄録・動画を公開

new 当センターが第3回日本在宅医療連合学会大会（2021年11月）シンポジウムにおいて発表した演題の抄録及び発表スライドをご紹介します。

◎ [「医療介護専門職が意図して聴取し記録した時系列情報は意思決定支援に役立つ～地域ICTでACPに資する情報を共有する営み自体が教育機能を持ち専門職の規範的統合を促進する～」](#)
[（PDF）](#) [発表動画（mp4）](#)

